

1 学校経営の方針

1 はじめに

三条市立第二中学校は、開校以来、多くの情熱あふれる教職員による献身的な取組、家庭、地域との連携、協力によって充実・発展し、望ましい校風が培われてきた。また、小中一貫型校舎となって7年目、小中一貫校「一ノ木戸ポプラ学園」として、「豊かなかかわりを求めて自分の可能性を拓く子どもの育成」を目指す取組は本校の大きな特色である。

本年度も、これまでの蓄積を生かすとともに、教職員が一つとなって、より一層、地域・保護者から信頼される学校を築き上げ、「互いに敬愛しあい、たくましく、実践する生徒」の育成を目指す。

2 一ノ木戸ポプラ学園が目指す子ども

「豊かなかかわりを求めて、自分の可能性を拓く子ども」

3 教育目標

「互いに敬愛し合い たくましく 実践する生徒」

4 学校経営の基本的な理念 『一人一人を大切にする教育』

「一人一人」とは、学校の主役である「生徒」はもちろんこと、それを支える「保護者や地域の方々」、そして教育活動を進める「教職員」の全てのことです。

○人の和を図る

「教育は人なり」と言われるように、教育活動の成果を上げるには、全教職員の組織を通しての協力が必要であり、何をするにも良好な人間関係に勝るものはない。同じ職場に巡り合ったこの出会いを大切にし、明るく楽しく、意欲と活気に満ちた学校にしたい。良さを認め合い、短所は補い合って、組織の一員としての役割を發揮し合える集団でありたい。

○活動の価値を見いだす

教育にも「費用対効果」の理念は必要である。良かれと増え続けた取組による消化不良は間違いなく起こっている。“何のために”が語れない取組はなくてよい。効果が見えない取組はなくてよい。“あった方がいい。でも、なくてもよい”取組はなくてよいのだという発想こそが、学校のスリム化に必要である。あれも、これもを止め、今こそ、一点突破、一極集中の理念で一つ一つを完成させていく学校でありたい。

5 目指す学校の姿 「すべての人の笑顔あふれ、一人一人が光り輝く学校」

生徒にとって「魅力ある、通って楽しい学校」、保護者にとって「子どもを通わせたい学校」、地域にとって「地域の誇りに思える学校」、さらに教職員にとって「やりがいのある学校」でありたい。そのためにも、生徒一人一人がのびのびと個性や能力を發揮させる場面が用意され、

自分の成長を実感できる状態に導いていく。

- 確かな学力を保証し、豊かな人間性を育てる学校
- 保護者や地域から信頼される学校
- 教職員が生き生きと活動し、使命感とやりがいをもって働く学校

6 目指す生徒の姿

「他者とのかかわりをとおして、自信を持ち、夢の実現に向け挑戦する生徒」

- ア 一人一人のよさや違いを理解し合い、認め合い、励まし合い、支え合う生徒
- イ 他者と協力しながら、互いに高め合う生徒
- ウ 目標を持ち、粘り強く挑戦し、自分（の可能性）を伸ばす生徒
- エ 「命」を大切にし、「信頼」「プライド」をなくさない生徒

◎ 「知」「徳」「体」の点からの目指す姿と重点課題

- 「知」 他と関わりながら めあてをもって学ぶ生徒（ア、イ、ウ）
 - 進んで取り組み、学ぶ楽しさを感じる授業の推進
- 「徳」 他を尊び 思いやる生徒（ア、エ）
 - 自他のよさを感じる共感的な人間関係の育成
- 「体」 生活のプランニングを身に付けた生徒（ウ、エ）
 - 自らの生活習慣の向上を図る取組を推進

7 重点課題達成に向けた取組

(1) 進んで取り組み、学ぶ楽しさを感じる授業の推進

- ①三条市授業スタンダードを活用した授業改善
- ②新学習指導要領の完全実施に向けた授業改善
- ③家庭学習の習慣化 ※二中ライフを用いたプランタイムの有効活用
- ④小中一貫学習4原則を基にした学習規律の徹底

(2) 自他のよさを感じる共感的な人間関係の育成

- ①授業や様々な活動を通して、豊かなコミュニケーション力と人間関係を形成する力を育てる
- ②修成会や学年・学級の自治的な活動を通して、役割と責任を自覚させ協働する力を高める
- ③小学校や地域との交流などの体験活動を通して社会性や自己有用感を育てる
- ④構成的グループエンカウンターなどに関する職員研修から、教育活動において仲間づくりや人間関係づくりを進める

(3) 自らの生活習慣の向上を図る取組を推進

- ①二中ライフを用いた生活習慣の改善を促す
- ②体育や部活動・学校行事を通して進んで運動に親しむ習慣を育てる
- ③メディアと上手に付き合う望ましい生活習慣を育てる
- ④望ましい健康管理を図るために「食育」を進める

8 学校運営を進めるうえでの共通理解～目指す学校の姿の具現化に向けて～

- (1) 教育活動全体を通して、生徒一人一人の自己有用感を高める取組を進める
- (2) 学級や生徒会活動を通して「支持的な風土」を醸成する集団の質的向上を図る
- (3) 不登校や不適應の対応するためきめ細かく能動的な指導体制を築く

※(1)～(3)を進めるために

- ① 生徒一人一人への日常的な声掛け及び教育相談並びに情報交換を通して、生徒の様子の発見に努め、生徒の支援及び指導に生かす。
- ② 様々な活動にPDCAサイクルを用いて、集団としての高まりと自治的で支持的な風土の醸成に努める。
- ③ 一人一人の教育的ニーズに応じた支援・指導の充実を図る。
- ④ 情報交換を密にするとともに、生徒の変容を把握し適切な支援・指導に努める。そのために、日常的な「報告・連絡・相談・確認」の徹底を図る。

(4) 地域とともにある学校づくりに努める

- ① コミュニティスクールの有効活用により、地域の人たちと学校運営において「共同」「協働」を進める。
- ② 学校だより及び学年だより並びにホームページ及び学校メールを通して、積極的に保護者や地域に学校を公開する。
- ③ 保護者や地域、関係機関との連携を密にした指導体制を構築する。

9 目指す教師の姿 「人間性を磨き 学び続ける教師」

- 教育公務員として、また、一人の人間として、人間性を磨き、高める教師
- 自分で学ぶ、生徒から学ぶ、同僚から学ぶ、保護者や地域から学ぶ教師
- 認め合い、支え合い、励まし合う、高い同僚性及び協調性のある教師

そのために、

- (1) 教師一丸となって「授業が教師の使命である」を自覚する
- (2) 職員相互の授業参観や授業公開を通して、授業改善を図り授業力の向上に努める
- (3) 人権感覚を磨くとともに、組織として機能する教職員集団の形成に努める。
- (4) 誰に対しても「謙虚」「真摯」「誠実」そして「感謝」を忘れない。